

「月刊社労士受験別冊

勝つ！社労士受験 予想問題徹底攻略2023年版」正誤表・補遺について

2023 年度社会保険労務士試験は、2023 年 4 月 14 日の試験公示日現在施行されている法令に基づいて出題されます。本書は、2023 年 1 月末日までに確定している法令に基づいて執筆しており、その後の、2023 年 4 月 14 日までの事項について特段の補遺がないことを確認しております。

本書に以下の誤りがありましたので、訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

訂正頁	訂正箇所	誤	正	更新日
P107	問7 B肢	B 正しい 勤務間インターバル制度の導入予定はなく、検討もしていない企業について、導入予定はなく、検討もしていない理由（複数回答）別の企業割合をみると、「超過勤務の機会が少なく、当該制度を導入する必要性を感じないため」が 53.5 %と最も高くなっています。また、「当該制度を知らなかったため」の全企業に対する企業割合は 17.1 %となっています（令和 4 年厚生労働白書 P343 ）。	B 正しい 公的年金制度は、予測することができない将来のリスクに対して、社会全体であらかじめ備えるための制度であり、現役世代の保険料負担により、その時々の高齢世代の年金給付をまかなう世代間扶養である賦課方式を基本とした仕組みで運営されています（令和 4 年版厚生労働白書 P282）。	7/13

（最終更新：2023 年 7 月 13 日）